



横山毅人
心臓血管外科医長

コロナ禍で手術件数が一時、増加した。同院心臓血管外科医長の横山毅人医師

全身に血液を送る最も太い血管である大動脈に何らかの異常が起き、緊急の手術を必要とする大動脈緊急症。生活習慣病の一つと言え、山梨県立中央病院では

は「受診控えが影響した可能性がある」と話している。

要がある。

血管の負担が増して発症しやすくなるとも言われ、冬の場の入浴、トイレは注意が必要という。

横山医師によると、大動脈緊急症は緊急性が高い大動脈の病気の総称。大動脈の壁に裂け目ができ、血管の中に血液が流れ込む

手術はカテーテルと呼ばれる細い管を血管内に通して行う。カテーテルの先端に取り付けた、土管のような形をしたパイプを患部まで運び、内側から血管を補

で運び、内側から血管を補

「急性大動脈解離」、血管で運び、内側から血管を補

大動脈緊急症手術件数が増加

コロナ禍 受診控え影響か

の壁の一部がこぶのように膨らんで破裂する「胸部・腹部大動脈瘤破裂」が挙げられる。

強する。急性大動脈解離が心臓に近い場所できている場合は、開胸して人工血管に置き換えることもあ

55件で最多だった。同年は新型コロナウイルスのパンデミック（世界的大流行）が始まり、受診控えや人間ドックを一時休止する動き

術件数の増加につながった可能性があると指摘。大動脈瘤に限れば超音波やレントゲン、CTといった検査で発見し、予防治療が可能

や破裂が起きた場所に激しい痛みを感じ、意識がもうろうとすることも多い。命にも関わるため、一刻も早く救急車で対応可能な病院

山医師。寒暖差が大きいと

「大動脈緊急症は高血圧、脂質異常症、高血圧の患者に起きやすいことから、生活習慣病とも言える」と横

横山医師は「コロナ禍で生活習慣病に関する日常の通院・治療を自己判断でやめてしまう動きがあり、手

く救急車で対応可能な病院

山医師。寒暖差が大きいと

めてしまう動きがあり、手

切と話している。第2、4火曜日に掲載します

県立中央病院 大動脈緊急症手術件数の推移

